



近森病院からの ホットライン

命を救う。命をつなぐ。
CHIKAMORI
HEALTHCARE GROUP
近森病院

2022.10 Vol.224

発行：近森病院 地域医療連携センター



糖尿病・内分泌内科

あさば こういち
部長 浅羽 宏一

総合内科部長兼任

こんにちは。浅羽 宏一と申します。

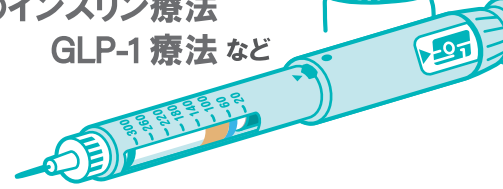
8年前に総合診療科部長として近森病院に戻って以後、総合診療医として診療して参りましたが、今年の7月から公文義雄先生の跡を継いで糖尿病・内分泌内科部長（総合内科部長と兼任）を拝命し、糖尿病・内分泌疾患の診療責任者となりました。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

高知大学医学部附属病院では、内分泌代謝専門医、糖尿病専門医として専門診療をしており、近森病院に戻ってからも、総合診療の傍ら、公文先生を助けて、主に救急診療で糖尿病性ケトアシドーシス、高血糖高浸透圧症候群、重症低血糖症の診療や、外科系診療科と併診して周術期血糖管理を行ってきました。これからは、診療の場を外来にも広げ、外来での糖尿病診療・患者教育、外来でのインスリン療法の導入、病院・診療所連携、スタッフの育成などを引き続き行っていきたく思います。また、内分泌代謝専門医でもありますので、バセドウ病などの甲状腺疾患、原発性アルドステロン症などの副腎疾患、低Na血症、高Ca血症などの電解質異常症（下垂体機能低下症や原発性副甲状腺疾患が隠れています）の診療も行っていますのでご相談下さい。

かかりつけ医の先生方へ 地域医療連携センターより
糖尿病・内分泌内科 医師のご紹介

患者さんの 自己注射による治療

2型 糖尿病のインスリン療法
GLP-1 療法 など



経 歴

- 1992年 高知医科大学（現高知大学）卒業
- 1998年 高知医科大学大学院 修了
- 1998年 高知医科大学 第2内科（内分泌代謝・糖尿病）
- 2004年 高知県立安芸病院 内科
- 2006年 高知大学医学部 総合診療部
- 2010年 愛媛大学医学部 総合医学教育センター
- 2012年 十全総合病院 内科
- 2015年 近森病院 総合診療科 部長
- 2021年 近森病院 総合診療科・総合内科 部長
- 2022年 近森病院 糖尿病・内分泌内科 兼 総合内科 部長

学 術 活 動

- 日本糖尿病学会・専門医
- 日本内分泌学会・内分泌代謝科（内科）専門医
- 日本内科学会・総合内科専門医・指導医
- 日本内科学会・認定内科医
- 高知大学 非常勤講師・臨床教授
- 岡山大学 非常勤講師・臨床教授 愛媛大学 非常勤講師

糖尿病・内分泌内科 へのご紹介は

	月	火	水	木	金
午前	浅羽 中山	浅羽	浅羽	浅羽	浅羽 中山



糖尿病サポートチーム
多職種で頑張っています！

紹介web予約をはじめました




088-822-5231(代)

ご希望の場合は
地域医療連携センターまでご連絡ください



近森病院 糖尿病・内分泌内科が

地域の先生方の糖尿病診療で“お役に立てそうなこと”は以下の3つです。

<h1>1</h1>	<p>血糖コントロール不良患者さんの糖尿病教育 栄養・服薬指導</p> 	<p>入院の場合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内服薬の調整やインスリンの種類の見直し、投与量などの調整。 ・その他、糖尿病教育（再教育）、栄養指導、服薬指導など。 	<p>外来の場合</p> <p>半年から1年に1度のペースで来院 糖尿病教育（復習）、栄養指導（確認）、 服薬指導（新規導入薬などの説明） などサポートいたします。</p>
<h1>2</h1>	<p>新規インスリン療法 GLP-1 療法</p> 	<p>患者さんの状態にあわせて 外来 入院 どちらでも対応させていただきます。</p> <p>糖尿病看護認定看護師、薬剤師、管理栄養士、理学療法士（糖尿病療養指導士）と連携しながら、血糖コントロールのよい状態をつくっていきます。</p>	
<h1>3</h1>	<p>糖尿病患者さんの諸検査</p>  <p>インスリン分泌能評価、悪性疾患の評価、動脈硬化や循環器疾患の評価</p>	<p>糖尿病患者さんは（脳梗塞や心筋梗塞など） 非糖尿病患者さんに比して 悪性疾患、動脈硬化性疾患の罹患率が高いため</p> <ul style="list-style-type: none"> ・胸腹部 CT・腹部エコー・上下部内視鏡検査 ・負荷心電図・頸動脈エコー・心エコー・下肢動脈エコー・脈波図など <p style="text-align: right;">諸検査で、定期的な評価が重要です。</p>	

糖尿病の最新治療

糖尿病注射剤

インスリン製剤

以前に比べて種類も多く、最近では超速効型インスリンと言われたノボラピッド、ヒューマログ、アビドラよりも速やかに血中濃度が高くなるルムジエブやフィアスプと言った超々即効型インスリンが使われるようになってきました。

GLP-1 製剤

週1回の注射でOKであるトルリシティ、オゼンピックが使われており、注射剤の導入に対する患者さんの心理的な障壁が低くなっています。

インスリンと GLP-1 の合剤

ゾルトファイなどのインスリンと GLP-1 の合剤があるため、患者さんの注射回数が減り、治療選択の幅が広がっています。



血糖測定



これまでは、皮膚に直接針を刺して血を出して血糖値を測定していましたが、今年の4月の診療報酬の改定で、針を刺さずに血糖値（正確には体液中のブドウ糖濃度）を24時間連続でモニタリング出来るFreeStyle リブレが導入し易くなりました。

FreeStyle リブレ



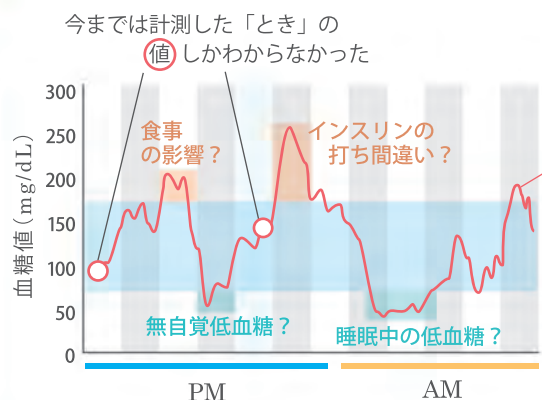
痛い思いをすることなく、何度でも測定でき、これまでの点としての血糖値から線としての血糖の動きが観察できるので、インスリン療法に必要な情報を数多く得ることができ診療の質が高くなりました。

血糖自己測定により、高血糖に対してインスリン量を増やし（セルフタイトレーション）、低血糖に迅速に対応し、低血糖を早期に予測することで糖尿病の診療の質が高まります。

HbA1c が 8% を超えたら

治療内容を変更した方が良いと言われています。
漫然と同じ治療を続けるのではなく、
治療内容を変更しましょう。

地域の先生方と協力して 糖尿病診療を盛り上げて行きたいと考えています。
どうぞよろしくお願いいたします。



今まで見られなかった
時間帯の血糖変動が可視化